

經濟論叢

第 124 卷 第 5・6 号

河上 肇生誕 100 年記念号

福田徳三と河上 肇	杉 原 四 郎	1
初期河上における経済政策論	大 野 英 二	21
河上 肇の「国家論」小考	住 谷 一 彦	50
漢詩人河上 肇の旧蔵書	一 海 知 義	65
河上 肇と「加算と減算」	高 寺 貞 男	87
『改版社会問題管見』序文	山 之 内 靖	99
財政問題よりみた河上 肇「貧乏物語」	池 上 惇	104
河上 肇における科学と宗教と哲学	古 田 光	120
 資 料		
京都大学時代の河上 肇	細 川 元 雄	141

経 済 学 会 記 事

經濟論叢 第123卷・第124卷 総目録

昭和 54 年 11・12 月

京 都 大 学 経 済 学 會

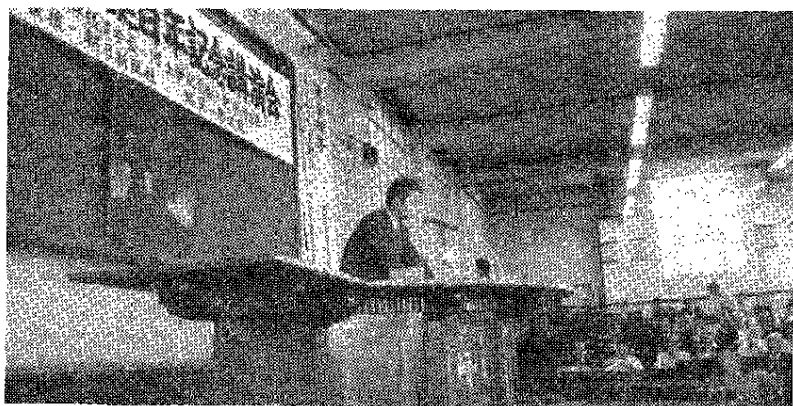
記 事

河上 肇生誕百年記念講演会

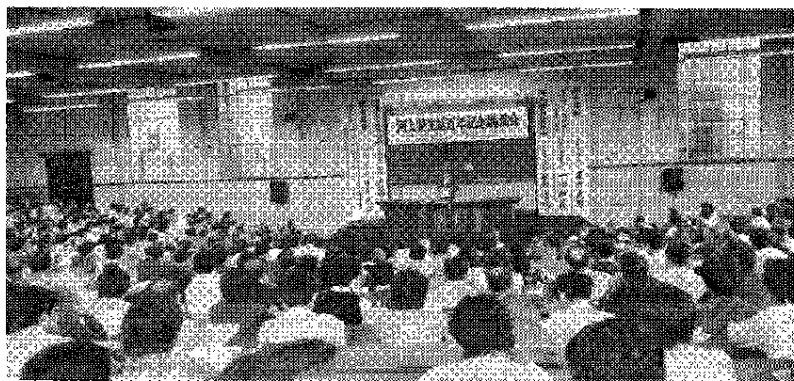
河上肇の誕生日に当る10月20日に、河上が京都大学経済学部の教授時代に教壇に立った法経第一教室において、生誕 100 年記念講演会が開催された。河上肇記念会・東京河上会と本学会が共催し、準備された会場正面には、河上の肖像画が掲げられ、午後1時に開かれた。聴講者は教官、大学院生、学生に一般の人達、さらに年配の男女を含めて700名を超え、第一教室は満席となった。しかも定刻通り、1時30分にはじまり、途中10分余りの休憩がとられたのみで、午後6時まで延4時間半にわたり、退席する者も少なく、講演会はまことに盛会裡に終わった。講演者と講演題目は次の通りであった（敬称略）。

開会の挨拶	京都大学経済学部長	高寺 貞男
もう一つの『白叙伝』～河上肇の漢詩	神戸大学教授	一海 知義
河上肇の社会科学	京都大学教授	平田 清明
河上肇における求道の問題	元東京大学総長	大河内一男
閉会の挨拶	河上肇記念会世話人代表	住谷 悦治

開会の挨拶に立った高寺教授は、本日が丁度生誕 100 年目であることと思ひ深い第



会場 （高寺部長挨拶）



会場 (平田教授講演)

一教室であることを述べられ、河上が京都大学で開講した講義科目がどのようなものであったかを紹介された。一海教授は、晩年の河上にとって、漢詩創作が自己告白の手段であり、『自叙伝』執筆とは別に、もう一つの「白画像」を描く手段でもあったことを述べられた。つづいて平田教授は、経済原論、経済学史を自から講義する立場から、河上の最終講義であった『経済学大綱』を取り上げ、上篇がマルクス『資本論』を原論講義として体系化したわが国最初のものとし、下篇が学史講義を経済倫理史として組み立てたことに、日本マルクス学上の河上の独自性を熱っぽく論じられた。予定されていた蜷川虎三氏（京都大学名誉教授・前京都府知事）が健康上の都合で講演ができず、替わって大河内氏が立ち、河上の生涯を貫く求道精神を明治末期・大正期から昭和初期に至る歴史の流れで把握、思想家としての河上を論じられた。最後に、河上研究の開拓者とも言うべき住谷氏が、河上の学究精神を説かれ、閉会の言葉とされた。なお、写真は経済学部事務長宮崎又治氏の提供を受けた。

（研究集会事務局：細川記）